

『専門記述対策講座 土木職』(KU19256)

訂正表

2022年4月25日現在

| ページ | 訂正箇所 | 訂正内容 | 掲載日 |
|--------|--------------------------|---|-----------|
| P. 14 | [解説 05] 小問(2) 最後の行 | 誤 $\sigma_{BC} = \frac{200 \times 30}{720000} + \frac{100}{40 \cdot 60} = \frac{1}{20} = 5.0 \times 10^{-2} \text{ kN/cm}^2$ | 2021/1/12 |
| | | 正 $\sigma_{BC} = -\frac{200 \times 30}{720000} - \frac{100}{40 \cdot 60} = -\frac{1}{20} = -5.0 \times 10^{-2} \text{ kN/cm}^2$ | |
| P. 91 | [解説 30] 小問(1) | 誤 小問(1) 乾燥密度は, $\rho_d = \frac{\rho_s}{1+e} = \frac{2.60}{1+0.60} = 1.625 \text{ g/cm}^3$ したがって、湿潤密度は, $\rho_t = \left(1 + \frac{w}{100}\right) \rho_d = 1.2 \times 1.625 = 1.95 \text{ g/cm}^3$ | 2021/1/12 |
| | | 正 小問(1) 乾燥密度は, $\rho_d = \frac{\rho_s}{1+e} = \frac{2.60}{1+0.60} = 1.625 \div 1.6 \text{ g/cm}^3$ したがって、湿潤密度は, $\rho_t = \left(1 + \frac{w}{100}\right) \rho_d = 1.2 \times 1.62 = 1.944 \div 1.9 \text{ g/cm}^3$ ※ 計算は間違っておりませんが、有効数字が不適切でした。 | |
| P. 92 | [問題 31] 小問(1) 3行目 | 誤 ただし、供試体の直径は 6 cm, 2 cm である。 | 2021/2/9 |
| | | 正 ただし、供試体の直径は 6 cm, <u>高さは 2 cm</u> である。 | |
| P. 96 | [解説 33] 小問(2) 最後の行 | 誤 $\therefore h_A = 4.54 \text{ m}$ | 2021/4/23 |
| | | 正 $\therefore h_A = 4.54 \text{ m}$ したがって、小数点以下第 2 位を四捨五入して、 $h_A = 4.5 \text{ m}$ となる。 ※ 計算は間違っておりませんが、有効数字が不適切でした。 | |
| P. 92 | [問題 31] 小問(1) 3行目 | 誤 ただし、供試体の直径は 6 cm, 2 cm である。 | 2021/2/9 |
| | | 正 ただし、供試体の直径は 6 cm, <u>高さは 2 cm</u> である。 | |
| P. 103 | [解説 35] 小問(2) | 誤 左右で $7.58 - 4.5 = 3.0 \text{ m}$ の水頭差を 10 個の等ポテンシャル面で区切っているため、流線網の 1 区画は 0.3 m に相当する。図では流線によって流れる断面が 5 つに区切られているため、区画の断面積は 1.5 m (単位奥行き当たり) になる。したがって、求める 1 日辺りの透水量は, $q = 5.0 \times 10^{-2} \times 3.0 \times \frac{5}{10} \times 60 \times 60 \times 24 = 6480 \text{ m}^3/\text{d}$ | 2022/4/25 |

| | | | | |
|--------|--------------------------|---|--|-----------|
| | | 正 | <p>単位幅当たりの浸透水量 Q (m³/day) は, 透水係数 k (m/s), 水位差 h (m), 流線ではさまれる帯の数を N_f, 等ポテンシャル線ではさまれる帯の数を N_d とすると,</p> $Q = kh \frac{N_f}{N_d} \times 60 \times 60 \times 24$ <p>と表される。</p> <p>上式に, $k = 5.0 \times 10^{-2}$, $h = 4.5$, $N_f = 5$, $N_d = 10$ を代入すると, 求める 1 日辺りの透水量は,</p> $Q = 5.0 \times 10^{-2} \times 4.5 \times \frac{5}{10} \times 60 \times 60 \times 24$ $= 9720 \text{ m}^3/\text{day}$ | |
| P. 157 | [解説 58] 小問(1) 空欄 C | 誤 | C : 単測法 | 2022/4/25 |
| | | 正 | C : 倍角法 | |
| P. 157 | [解説 58] 小問(1) 説明② | 誤 | ② 水平角の測定には, 基準となる方向から求める測線までの方向を右回りに順次測定していく方向法と, 一つ一つの角度を測定していく単測法がある。 | 2022/4/25 |
| | | 正 | ② 水平角の測定には, 基準となる方向から求める測線までの方向を右回りに順次測定していく方向法や, 1 つの角を 2 回以上繰り返して測定し, その平均をとる倍角法などがある。 | |

※「掲載日」は, 上掲訂正情報が LEC ホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/>)に掲載された日付です。